

46th Concertino di Kyoto

第46回 コンチェルティーノ ディ キョウト 演奏会

2004.11.20(土) 19:00 府民ホールALTI

主催 才能教育研究会京都支部

ロカテルリ
合奏協奏曲 Op.7-12

アレグロ
ラルゴ
アレグロ

ハイドン
チェロ協奏曲 第1番 八長調

モデラート
アダージョ
アレグロ・モルト

シューベルト (マーラー編曲)
弦楽四重奏曲 第14番
「死と乙女」

アレグロ
アンダンテ・コン・モート
アレグロ・モルト
プレスト

チェロ独奏 結城 貴弘
指揮 新井 覚
江村 孝哉

LOCATELLI
Concerto grosso Op.7-12

Allegro
Largo
Allegro

HAYDN
Concerto for Violoncello No.1

Moderato
Adagio
Allegro molto

SCHUBERT(Mahler)
String Quartet No.14
『Death and the Maiden』

Allegro
Andante con moto
Allegro molto
Presto

CELLO SOLO Takahiro Yuki

CONDUCTER Satoru Arai
Takaya Emura



結城 貴弘

1980年生まれ。3歳よりスズキメソードでチェロを始める。桐朋学園高等学校音楽科を首席で卒業。桐朋学園大学を経て、現在桐朋学園大学嘱託演奏員を勤める。在学中、堤剛、ルイス・クラレット、マリオ・ブルネロ、各氏の公開レッスン受講生に選ばれる。京都国際音楽フェスティバルに桐朋チェロアンサンブルとして招待されコンサートマスターを勤める。モーリス・ラヴェル国際アカデミーではフランスにてパリ音楽院生と共に弦楽四重奏演奏会に出演。2002年8月にウィーンで開催された「ブラハ・ウィーン・ブタペスト国際サマーアカデミー」に奨学金を得て参加。関西弦楽コンクール優秀賞、審査員賞受賞JILA音楽コンクール3位入賞。鈴木鎮一、松波恵子、フィリップ・ミューラー、毛利伯郎、小森谷泉の各氏に師事。多数のアーティストのサポートも手がけ、ジャンルを超えて活躍中。

ピエトロ・アントニオ・ロカテルリ 合奏協奏曲 作品7-12

バロック期の代表的なヴァイオリニストの一人。若い頃ローマでコレリリに師事した後アムステルダムに赴き定期演奏会を開いたりヨーロッパ各地を広く演奏旅行をしている。16世紀まで西洋音楽の主流はなんといっても声楽で純粋に楽器のためのつくられた音楽はあまりなく、17世紀つまりバロック時代に入ると「器楽のための音楽」が盛んにつくられるようになる。ちょうどこの時代にヴァイオリンという楽器がほぼ完成しヴァイオリンのための曲がたくさん作られるようになる。合奏協奏曲は数人の独奏と合奏が交互に対比を作って演奏する型で、やがて独奏楽器のための協奏曲に発展していく。

ヨゼフ・ハイドン チェロ協奏曲 第1番 八長調

しばらく前まで、ハイドンのチェロ協奏曲第1番はその存在だけが知られ楽譜は現存していないと思われていたが、1961年にブラハで楽譜が発見され一気に知られるようになった。200年ほども貴族の文庫や図書館で眠っていたことになる。作曲されたのは1765~67年頃で、ハイドンが楽長を務めていたエステルハーシ家の宮廷楽団のチェロ奏者のために書かれている。第2番よりはバロック音楽の痕跡を残しているが、チェロが開放的で明るく鳴り響きチェロのレパートリーとして定着している。3楽章を中心とした技巧的な華やかさも聞きもの。

フランツ・シューベルト 弦楽四重奏曲 第14番 「死と乙女」
(マーラー編曲) (弦楽合奏版)

シューベルトはベートーヴェンを大変尊敬していてベートーヴェンのようながっちりした構成の曲を書きたいと考えていた。それがこの「死と乙女」である。構成もしっかりしていれば、第2楽章の変奏曲に見られるように美しい旋律にも事欠かない。第2楽章は1817年に作曲された歌曲『死と乙女』をもとにした変奏曲となっている。作曲当時シューベルトは病氣にかかり死と直面していた。そのため死に抵抗する少女と甘い言葉で死に誘う死神との対話を扱った曲を主題に取り入れたと思われる。マーラーにより弦楽合奏に編曲された。ちなみにシューベルトの墓はベートーヴェンの隣である。

VIOLIN

山本佳奈 ニヴォン慧里紗 井狩苑子 上田彩希 妹尾俊吾
長谷川英司 渡邊裕美子 石田悠 栗田依未子 磯貝碧里
木田淳子 井上史 中村亜季 笠木愛 壁瀬智泉 村上佐知子

VIOLA

江村孝哉 佐々木めぐみ 江村美由紀 仲佐悦子
上田真希 田原明子 佐々木弘明

VIOLONCELLO

森田健二 田村忠司 壁瀬宥雅

CONTRABASS

吉平大作

